第2回全国支部長会 新旧支部長がシブコンを総括

↑挨拶に立つ小林宏育友会長。右から湯浅敏明常務理事、２人目は小林弘和主任教授（法学部教授）。左端は加藤淳子事務長

↑登壇した前嶋智神奈川東前支部長（左）、磯和明前副会長

←活発な意見交換が行われた

↑発表する長尾一栄奈良支部長

↑支部独自で 10 月に発行した『京都・奈良支部だより』

生田キャンパス見学会の翌 11 月３日（日）、全国の新旧支部長が神田キャンパスに集まり第２回全国支部長会を開催。夏の支部懇談会の結果を振り返るなどしました。

支部懇談会参加者を増やすための各支部の取り組みが発表されました。

神奈川東西支部では今年度、支部懇談会の申し込みを葉書だけでなく、インターネットでも行えるようにしました。全国の支部に先駆けたこの取り組みについて、システムの詳細を磯和明前副会長が、成果と課題を前嶋智神奈川東前支部長が発表。「申込者は名前や住所を記入する手間が省け、管理する側は作業が効率化するメリットがある」と前嶋前支部長。今回、約３割がインターネットで申し込みしたといいます。導入するには、支部役員にある程度の PC スキルが必要となりますが、今後、他支部でも同システムの導入は進むと予想されます。

続いて、京都・奈良支部の合同で発行した広報誌（Ａ４判、カラー４ページ）について、長尾一栄奈良支部長が発表。「支部の活動を会員に知ってもらいたい」という思いで発行したもので、今後も３カ月に１回のペースで発行する予定といいます。

各支部の発表に続いて、小林宏育友会長が支部懇談会全体を総括。支部懇談会では全国 63 会場に延べ 307 名の教職員が訪れ、1,031 件の個人面談が実施されました。参加者は前年度より減少したものの、満足度は 85％を超す高い数字が得られたことが報告されました。

そのほか、支部運営の根本的な課題として、近年、専修大学の６割強の学生が首都圏出身であり、運営自体が難しくなっている地方支部もある現状について、支部役員の負担軽減策なども含め検討していく旨が伝えられました。